みんなのとしょかん

市民図書館
TEL：(921)4646／FAX：(921)4896
開館時間　午前10時から午後6時まで
※金曜・土曜（祝日除く）は午後7時まで

あたらしくはいった本 令和7年11月 貸出開始資料から

●小説・エッセイなどの文学　オーロラが見られなくても(近藤史恵／著)　雷電(梶よう子／著)　ちゃぶ台ぐるぐる(群ようこ／著)　吾も老の花(阿川佐和子／著)　みずいらず(染井為人／著)　最後の一色　上・下(和田竜／著)　少弐(帚木蓬生／著)　変な地図(雨穴／著)　ナモナキ生活はつづく(寺地はるな／著)　シークレット・オブ・シークレッツ　上・下 (ダン・ブラウン／著)　プレイグラウンド(リチャード・パワーズ／著)

●その他の本　すっきり自力整体(矢上真理恵／著)　暮らしを楽しむ横山タカ子のおもてなし(横山タカ子／著)　こども防犯BOOK(冨川万美／著)　難問クイズで思考力を鍛える(クイズ法人カプリティオ／著)　歩いて旅する、ひとり京都(山脇りこ／著)　ようやくカレッジに行きまして(光浦靖子／著)　絶滅しそうな世界の文字(ティム・ブルックス／著)

「冬の朗読会」を開催

市民図書館　(☎内線672)

日　時　1月18日㈰ 午後2時30分～午後4時(途中休憩あり)
場　所　プラム・カルコア太宰府(中央公民館)　3階視聴覚室
対象者　大人　**料　金**　無料　**定　員**　40人
内　容　「朗読紫苑の会」冬の朗読会を開催します。
葉室麟／著　「泪」(『孤篷のひと』より)、入江鳩斎／作　菊池秀行／訳　「江戸珍鬼草子」(『東海道綺譚』より)ほか、冬の季節にちなむ短編小説やエッセイなどを取り上げる予定です。文芸作品を耳で味わうことで、読書の幅を広げてみませんか。気軽に参加してください。
講　師　(実演)朗読紫苑の会

1月 としょかんカレンダー

日	月	火	水	木	金	土
				①	②	③
④	⑤	6	7	8	9	10
11	12	⑬	14	15	16	17
18	⑲	20	21	22	23	24
25	㉖	27	㉘	29	30	31

○印の日は、お休みです。

太宰府の文華～公文書館だより 141～

大内氏の半済と天満宮領

ページID：7241

半済とは、年貢などを半分だけ領主に納入することを意味し、鎌倉時代から事例が見られます。南北朝時代になると、室町幕府が内乱の中で臨時に戦費を捻出するため、貴族や寺社の領地において半済を実施し、年貢の半分を武士たちに分け与えるようになります。続いて年貢を折半するだけでなく、土地自体を分割して与えるようになりました。

この半済によって分割された領地を武士たちに預ける権限を、幕府は各国の守護に与えたので、守護たちはこれを利用して管轄国内の武士たちとの間に主従関係を形成していきました。さらに守護は独自の意思で半済を行うようになり、自らの領国統治の手段として役立てていきます。今回取り上げる大内氏による半済も、その中の一つです。

大内氏の半済については、すでに研究成果が発表されているので、そちらを元にご紹介します。同氏が実施した半済は大きく二つに分けられ、一つは一国全体あるいは領国全体の寺社の領地で一律に行われる惣国準拠の半済と呼ばれるもので、もう一つは個別の寺社領で行われる半済でした。前者は大内氏が大規模な戦争をする際に必要な費用を確保するための手段で、後者は個々の事情に応じた小規模なものです。ここでは後者について、太宰府天満宮の領地を例に挙げてみます。

天満宮の社家の一つである満盛院の領地に、筑前国早良郡の戸栗・重富（現福岡市西区～早良区）があります。この地については前に取り上げたことがあり（2021年10月号・22年1月号）、大内氏が他国から亡命してきた人々（宗大和守・千葉胤勝・龍造寺胤栄ら）を庇護し、一時的にこの地で領地を与えていたことをご紹介しました。実はそのたびに大内氏は両所に半済を実施し、亡命者に与える領地を作り出していたのです。それは史料が残る分だけでも、戦国時代に4回も確認できます。よって領主である満盛院は、たびたび領地の半分を没収されて迷惑し、そのつど大内氏に返還してくれるよう訴えざるを得ませんでした。大変な労苦だったのではないかと思います。

太宰府市公文書館　大塚　俊司